

「保育者養成教育研究」原稿作成の手引き

原稿作成に際しては、「編集要綱」、「投稿要領」および「原稿作成の手引き」に従う。

1 原稿の体裁等

- (1) 原稿は、日本語ワープロソフト（Windows 形式「Word」あるいは「一太郎」）で作成し、PDF 化して A4 判用紙に、文と、図、表を挿入して、完全版下で提出する。
- (2) 本誌は、A4 判、縦置き、横書きとする。字数は、1 ページ 52 字×43 行（2,236 字）とする。
（*必ずプリントアウト後の 1 行の字数と行数が適正であるか確認すること）
- (3) 原稿の長さは、本誌仕上がり 10 頁以内とする。表題・執筆者名・所属・和文要旨・キーワード・本文・図・表・資料・注・引用文献・参考文献・付記・謝辞などを含む。但し、英文要旨はここに含まれない。
- (4) 日本語フォントは、MS 明朝、英数字は Century とする。
- (5) 本文のフォントは、MS 明朝、9 ポイントとする。数字は、全て半角とする。
- (6) 原稿の冒頭、見出し・小見出し、図表は次のように書く。
 - ①原稿の冒頭には、表題（14 ポイント）、副題（ある場合は 11 ポイント）、執筆者名（9 ポイント）、所属（8 ポイント）を入れる。表題と副題は共に、中央揃えとする。執筆者が複数の場合は、一行に 2 名ずつ配分して表記する。
 - ②本文中の見出しは、MS ゴシック、10 ポイントとする。見出し分の前後 1 行を空ける。
 - ③小見出しは、MS ゴシック、9 ポイントとする。
 - ④図表の表題は 8 ポイントで、通し番号と表題があること。図の表題は、図の下中央、表の表題の上中央に表記する。
- (7) 原稿の下部に、ページ番号を付すること。
- (8) 論文の要旨とキーワードの表記方法は以下による。
 - ① 和文要旨は、250 字以上 300 字以内、MS 明朝、9 ポイントで作成し、本論の前に表記する。
 - ② 英文要旨は、本論とは別に、200 語程度、Century、9 ポイントで作成し、表題、執筆者名、所属を記載する。
 - ③ 和文要旨・英文要旨ともに、3 語以上 5 語以内でキーワードを設定し、それぞれの要旨の末尾に記載する。

2 原稿作成の通則

2-1 原稿の冒頭

原稿の冒頭には、表題、副題、執筆者名、所属を前述のポイント数で入れる。なお、表題は、論文等の内容が明確に分かるようにし、「第〇報」等は含めない。

2-2 本文

(1) 次のように書くことが望ましい。

- ① はじめに／序論 : 研究の背景、研究を始めた動機を説明する。
- ② 本文内容 : 研究の目的、研究の方法（実験方法、調査方法、分析方法等）、得られた結果、知見、先行研究との比較、考察などについて、図表を用いて説明する。
- ③ おわりに／結論／まとめ : 得られた結論や成果を簡潔に記す。また、残された課題があれば簡単に書く。

(2) 本文は、研究の目的、研究の方法、結果、考察などを読みやすく記述し、章、節、項等で構成し、それぞれに見出し文を設定する。

章・節・項等には、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ…、1・2・3…、(1)・(2)・(3) …、の順で番号を付する。

2-3 見出し(10ポイント)

- ① 見出しは、MS ゴシックとし、中央揃えする。
- ② 章の見出しは、ローマ数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ…）を行頭につけ、全角空けて記述する。
- ③ 「はじめに／序論」「おわりに／結論／まとめ」「注」「引用文献」「参考文献」「謝辞」には行頭のローマ数字をつけない。
- ④ 見出しと本文の間は1行空ける。

2-4 小見出し(9ポイント)

- ① 小見出しは、MS ゴシックを用いる。
- ② 小見出しの番号は次の順とする。
 - 1. ○○○、… 2. ○○○、…
 - (1) ○○○、… (2) ○○○、… 「(」は全角とする。
 - ① ○○○、… ② ○○○、…
 - ア ○○○、… イ ○○○、…

2-5 図表(表題は8ポイント)

- ① 図(写真を含む)と表は白黒で作成する。
- ② 図(写真を含む)と表には、それぞれの通し番号を付するとともに、必ず表題をつける。
- ③ 図の表題は、図の下中央に、表の表題は表の上中央に書く。
- ④ 図表の注は、それぞれの下に右詰めで書く。

2-6 本文中の文献の引用

本文中での文献の引用は、次のようにする。

(例) 森上 (2003)¹⁾ は……………

Kashiwame (2002)²⁾ は……………

……………といている (森上 1998)³⁾

……………といている (Kashiwame2001)⁴⁾

なお、著者人数によって、下記のような表記とする。

(森上 2003)⁵⁾ および (Kashiwame 2002)⁶⁾

(森上・柏女 2003)⁷⁾ および (Moriue & Kashiwame 1999)⁸⁾

(柏女ほか 2000)⁹⁾ および (Moriue et al. 1998)¹⁰⁾

複数の引用をつける場合は、下記のようにする。

(柏女・森上 1997¹¹⁾, Kashiwame et al. 1999¹²⁾)

2-7 注、引用文献、参考文献の記載

注、引用文献、参考文献は、それぞれの通し番号を付け、本文の最後に記載する。

注は、本文中の該当箇所の右肩に、注1) 注2) の番号を付して明記する。

研究会や学会等の大会・総会等における口頭発表、ポスター発表、資料等を元に分析、考察を深め投稿したものは、本文中に注をつけその旨を明記しなければならない。

引用文献は、本文中の該当箇所の右肩に1) 2) の番号を付して明記する。尚、本文中で引用している文献のみをここに上げる。

参考文献は、注、引用文献の後に記載する。尚、本文の参考とした文献のみを記載する。

(1) 「注」の記載方法

注1) 子どもたちの表現活動そのものを学生達に代替実践させているものであり、養成教育としての内容構成の視点、即ち子どもたちの表現活動をいかに援助・指導しうる学生を養成するかといった視点が明確でないようにも思われる。

注2) 厚生労働省、「保育所保育指針」、平成20年版。以下、本文中の引用はこの版による。

(2) 引用文献の記載方法

○雑誌の場合：著者名 (発行年)，論文題名，『誌名』，巻数 (号数)，頁。

1) 吉田和人(2002)，「幼児のボールキック運動の特徴」，『保育学研究』，40(2)，pp.50-51.

○単行本の場合：著者 [あるいは編者名] (発行年)，『書名』，発行所，頁。

2) 高濱裕子 (2001)，『保育者としての成長プロセス—幼児との関係を視点とした長期的・短期的発達—』，風間書房，p.75.

3) Ronda Kellogg(1969), Analyzing Children's Art, Mayfield Publishing Company, p.94.

4) Lave, Jean & Wenger, Etienne(1991), Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation Cambridge University Press. (=1993, 佐伯胖, 『状況に埋められた学習—正当的の周辺参加—』, 産業図書, pp.33-36.)

○複数の著者によって書かれた単行本の特定部分を引用する場合：章・節の著者名（発行年）、章・節のタイトル、本の著者 [あるいは編者名]、書名、発行所、頁。

5) 柴山真琴 (1999) 「ある中国人 5 歳児の保育園スクリプト獲得過程—事例研究から見えてきたもの—」, 箕浦康子編著, 『フィールドワークの技法と実際—マイクロ・エスノグラフィー入門』, ミネルヴァ書房, pp.123-140.

6) Joy Goodfellow & Jennifer Sumsion(2003), Transformative Pathways in Becoming An Early Childhood Teacher, Olivia N. Saracho & Bernard Spodek (eds.), Studying Teachers in Early Childhood Settings, Information Age Publishing, p.60.

○電子媒体の場合

インターネット上の資料を引用する場合は、資料題名、サイト名、URL、資料にアクセスした日、を記す。

7) HYK 第三者評価の特徴, 社団法人全国保育士養成協議会, <http://hoyokyo.or.jp/hyk/overview/>, 2012年2月12日.

(3) 参考文献の記載方法

筆頭著者のアルファベット順に並べる。

- 1) 繁樹算男・柳井晴夫・森敏昭(1999), Q&Aで知る統計データ解析 — DOs and DON'Ts — , サイエンス社
- 2) 津守真(1997), 保育者の地平, ミネルヴァ書房

3 和文要旨と英文要旨

- (1) 和文・英文要旨は、目的・方法・結果・考察を含めて本文の内容が理解できるよう簡潔に書くこと。
- (2) 英文要旨は、ネイティブスピーカーもしくは英語に堪能な人の校閲を受けること。
- (3) 英文要旨を「保育者養成教育研究」に掲載する場合、若干変更することがある。ただし、その場合は執筆者に連絡して了承を得る。

4 作成上の留意事項

- (1) 記述は、簡潔かつ明瞭にする。本誌読者の多様な専門的背景を念頭におき、記述形式に注意する。
- (2) 表記については、引用や固有名詞など特別の場合を除き、常用漢字表やその付表に従った現代用語法、現代かなづかいとする。上付き、下付きの文字を明記する。
- (3) 専門用語については当該専門分野の「学術用語集」等の辞・事典類によることを旨とし、学界で定着していない用語の使用に当たっては注記を加える等の方法をとる。また、数値・数詞・単位記号などの表記は、仕上がりが横組みであることを念頭において読みやすい形に統一する。
- (4) 固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。

5 投稿の手続き

「投稿要領」および「提出物一覧」を参考にして、学会のオンライン投稿システムにて投稿すること。論文の体裁については、次頁に掲載の「論文様式見本」を参照されたい。また、本会公式ホームページ内に、論文のテンプレートを掲載する。